

(整理番号:)

活動の名称	フリガナ サイガイギセイシヤゼロヲメザシタミズボウサイヘノトリクミ 災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み		
記入年月日	活動主体(下記より1つ選択)		分野(複数選択可)
	学校 企業 団体 個人 行政	水防災 ・水資源・水環境・水文化・復興	
活動主体の概要	水防災		
活動主体の名称 (個人応募の場合は個人名)	フリガナ ジョウソウシネシンデンジョウナйкаイ 常総市根新田町内会		
代表者名 (団体の場合)	フリガナ カトウ イワオ 自治区長 加藤岩雄	設立年月日	不明
住 所	フリガナ イバラキケン ジョウソウシ ナカツママチ 〒300-2505 茨城県常総市		
電 話	0297-	FAX	
E-mail		URL	http://neshinden.com
主な活動地	根新田地区内及び全国各地(出前講座講演会)		
組織の概要 (個人の場合は履歴を記入)	町内会加入世帯: 102世帯約400名 取組開始: 平成26年8月(ホームページの開設)から		
応募担当者(代表者と違う場合に記入してください)			
氏 名	フリガナ スガ ヒデオ 須賀英雄	所属:	根新田町内会 役職: 事務局長
住 所	フリガナ イバラキケン ジョウソウシ 〒300-2505 茨城県常総市		
電 話	(	FAX	
E-mail			
応募活動の概要:(300文字以内で記入して下さい)			
平成27年9月の関東・東北豪雨を契機に、当町内会は水防災意識社会の再構築に向けて様々な取組を行って来た。被災体験地区として、「災害犠牲者ゼロ」の目標に向けて、行政のみに依存するのではなく、「地域コミュニティが命を守る」という理念のもと自助・共助に関する先進的な取組を実施している。住民が自らの生活環境に合った「マイ・タイムライン」を検討するプロジェクトのモデル地区として検討会に参加し、被災体験者としてマイ・タイムラインの誕生に携わった。さらに鬼怒川流域地区内だけでなく全国各地で防災講演会を開催して、地域防災の重要性を周知啓発し、「災害犠牲者ゼロ」に向けた地域防災力向上の為に精力的に活動している。			
応募活動のアピールポイント:(箇条書き100文字以内で記入して下さい)			
- 被災体験者として、マイ・タイムライン誕生に携わり、普及活動を通じた防災教育の推進 - 災害体験の伝承と普及・啓発活動 - 住民避難の円滑化を図るための様々な独自の取組 - 地域を守る防災リーダー育成			
これまでの受賞歴:			
①H30あしたのまち・くらしづくり活動賞(主催者賞)			
②H30防災まちづくり大賞(総務大臣賞)			
③R1防災功労者内閣総理大臣表彰			
※日本水大賞への既往応募歴(第)受賞がある場合は 第()回()賞			
「日本水大賞」をどこで知りましたか?(数字に○印を付けて下さい)			
1. 新聞広告 2. 官庁内ポスター 3. 河川協会ホームページ 4. 河川協会からの誘い			
⑤ 国の機関からの誘い 6. 県・市町村からの誘い 7. 教育関係機関			
8. 河川協会ホームページ以外のインターネットの情報 9. その他()			

活動の概要

目的:

平成27年9月の関東・東北豪雨においては、鬼怒川下流部の堤防決壊等により常総市の面積のおよそ三分の一に相当する約40km²が浸水し、自衛隊、消防、警察、海上保安庁が合わせて約4,300名を救助するなど、避難の遅れや孤立が発生した。

昨今、豪雨災害が頻発している状況の中で、関東・東北豪雨のような洪水の発生頻度が高まることが予想される事を踏まえ、当町内会では、自助・共助に関する様々な取組を実施し「災害犠牲者ゼロを目指した」地域防災力の向上を目的として活動している。

内容:

国・県・市町で構成される「鬼怒川・小貝川流域減災対策協議会」において、住民一人ひとりが自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、いわば「自分の逃げ方」を手に入れることを目的として「みんなでタイムラインプロジェクト」を進めることとなった。被災を受けた常総市内のモデル地区として当地区が携わることとなり、半年間検討を進めるなかで、被災体験をもとに積極的に取り組み、平成29年5月「マイ・タイムライン検討の手引き」が取りまとめられた。

当町内会では、社会貢献活動の一環として、また「災害犠牲者ゼロ」を実現するために常総市や鬼怒川流域に限定せず、全国に向けてマイ・タイムライン作成講座や防災講演会(出前講座)を実施している。直近では平成30年に大きな被害を受けた岡山県倉敷市真備町で講演を行った。出前講座は今後の予定も含めると60カ所を超える。

出前講座際には「災害犠牲者ゼロ」を目指すために、地域のコミュニティの力が必要不可欠であり、近所への避難の呼びかけ、特に要支援者に対する直接的な支援は、地域しか出来ないということを重点的に伝え、自身(家族)のことだけでなく、「〇〇さんに声かけする」など、近所の一人暮らしや高齢者の方への支援も考慮した共助の取組が大切である旨を伝えている。逃げない住民の正常性バイアスを断ち切る「最後の避難トリガー」は地域のコミュニティである。

災害に強い町づくりは「向こう三軒両隣」の精神が欠かせないため、当町内会は、ショートメールを活用した「SMS一斉送信システム」、大地震発生時の「無事ですタオール」、身内からの呼びかけや近所の呼びかけ等、発災時の実効性のある取り組みを行っている。併せて町内会ホームページなどで地域コミュニティ、共助の必要性を内外に発信し、地域コミュニティの強化を図っている。

根新田町内会が運営する自主防災組織では、自治会長を含め各班の女性防災委員や防災士が適宜全世帯を訪問して防災啓発活動を行っている。また、地域防災力を高めるうえで、中核となる人材が必要不可欠であるため、防災士の育成や防災士同士の連携の場となる常総市防災士連絡協議会の発足、運営に当町内会が大きく貢献する等、行政との連携により地域防災力の向上に大きく携わっている。

このようなあらゆる取り組みが「地域コミュニティが命を守る」という地域防災力の向上に繋がるということを、あらゆる媒体で日本全国に周知啓発し、「災害犠牲者ゼロ」の実現につながることを目標に活動している。

自 平成28年10月～ 至 令和元年10月(通算 3年 0 月)

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入してください。

従来から防災活動は行っていたが、本格的には平成26年8月に地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」の開設を皮切りに、同年10月には自治会レベルでは全国発の緊急時に役立つ情報伝達のツールとして携帯電話のショートメールを使った全町民への「SMS一斉送信システム」を導入する等、現在も防災活動を継続的に実施している。

活動の必要性・緊急性:

平成27年9月の関東・東北豪雨をはじめ、全国各地で、地球温暖化等の気候変動の影響により、大規模な水害が多発している。その状況において、行政主体のハード対策だけではなく、行政と住民が一体となったソフト対策が重要であり、「逃げ遅れゼロ」に向けた迅速かつ的確な避難行動のためには、公助だけではなく自助・共助の取組が重要である。このような背景の中、最終的には「地域コミュニティが命を守る」という地域防災の重要性をあらゆる媒体で日本全国に周知啓発し、「災害犠牲者ゼロ」につながる様々な独自性のある活動を広く知らせる事の必要性・緊急性は、高いと感じている。

活動の効果・社会への波及効果:

平成27年9月の関東・東北豪雨の被災体験者として、独自性のある先進的な取組は、各種報道でも度々取り上げられている。「災害犠牲者ゼロ」につながる「マイ・タイムライン作成講座」は、千曲川流域の長野市柳原地区や東京都日野市など全国各地に出向いて行っている。また「SMS一斉送信システム」については、広島県呉市の自治会も採用し、西日本豪雨で住民との情報共有を図り、地域の不安を解消した事例もある。

取組内容は各方面から表彰して頂いているが、さらに日本全国にマイ・タイムラインを広げ、「災害犠牲者ゼロ」に向けた地域防災力向上が必要であると感じている。活動記録は、地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」のホームページで取組内容をわかりやすく公開している。

講演を聴講いただいた方からは、自身の地域にもぜひ取り入れて行きたい等の言葉も頂き、微力ながら全国の地域防災力向上のために貢献できていると感じている。

活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦勞された点:

地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」は、子供から高齢者まで幅広い世代の方が見て関心をもって頂けるように、地域のお祭り、釣り等のイベント情報、子供会の情報、資源回収情報、防災講演会など多種多様な情報を発信している。日頃からの町内会の連絡手段として活用することにより、災害時の情報入手やホームページを訪れる他自治会の参考になるような工夫もしている。

また、事務局長宅に、自費で近所の千代田堀川周辺を監視する防災カメラを設置、ホームページで公開し、だれでも見られる様にしている。このライブ映像により避難判断の目安も確認でき、避難所でも町内への浸水状況がわかるようになった。

活動の今後の計画:

台風15号が千葉県に甚大な被害をもたらし、とりわけ長期停電により、携帯電話やスマホの充電が出来ない等、大きな影響が発生した。それらを回避する為に、以前より計画していた独自の太陽光蓄電システムを現在試験運用中で、近日に正式運用が開始される。これにより災害時の長期停電対策として、昼夜利用可能な地域住民用のスマホ充電スポットとして大いに期待される。

また、地域防災力向上に寄与するために「マイ・タイムライン」の更なる普及と「地域コミュニティが命を守る」助け合いの大切さを今後も全国に向けて広く周知啓発していく。

応募推薦者(必要な場合にご記入ください)

氏 名	神達 岳志	推薦の言葉：普段から使っていないツールは、いざという時に活用できないことはこれまでの災害からもあきらかになっているが、根新田地区は、日頃の地域活動をSMSを使ってお知らせしている点は、特に他の地域でも参考になる仕組みである。全国に先駆けて、マイタイム・ラインのモデル地区にも指定され、本取組みの課題抽出や改良提案を積極的に行っている点や地区を流れる中小河川の監視カメラを独自に設置するなどきめ細かい部分にも対策を行っている。 また、同地区は、地区防災計画もすでに策定しており、本計画書に基づいて安否確認訓練も行うなど、さらなる地域防災力強化に継続的に活動を行っている部分は、大変高く評価できる。
所 属	常総市長	
電 話		
氏 名	青山 貞雄	推薦の言葉：気候変動による豪雨の頻発化・激甚化が急速に進む中、地域防災への先進的な取組やその重要性を全国に周知啓発する活動の意義は大きい。 また、マイ・タイムラインの誕生に大きく携わっていただいたこと、また、マイ・タイムラインの全国的な普及にも大きく貢献いただいていることは言うまでもない。 「災害犠牲者ゼロ」を目指した様々な防災活動に住民一人ひとりが積極的に取り組み、共助の精神、地域コミュニティを築き上げ、全国的な普及に努めていることは高く評価したい。
所 属	国土交通省 下館河川事務所長	
電 話		